

旧生方家住宅

旧生方家住宅は城下町沼田で薬種商を営み、江戸時代（1603～1867 年）を通して沼田藩主の御用達であった豪商の家である。同家の伝統的な木造家屋は 17 世紀後半に建てられたと考えられており、当初は町の中心部にあった。1973 年に保存のため沼田公園に移築された。

現在は博物館として公開されている平屋建ての家は、厚い漆喰塗りの土壁と、石で押さえた木板で覆われた屋根が特徴だ。家は妻入りで、上にスライドする雨戸が付いているため、前側を店舗として使うことができる。店舗部分は左側が一般客用、右側が身分の高い武家客用の高床式畳敷きの部屋と、客が店主と接するための土間とで構成されている。店の入り口の前には突き出たひさしがあり、来客を風雨から守っていた。

店の左側にある小さな扉はこの家の住人が使うものだった。土間の廊下が建物内を通り、板の間と囲炉裏のある居間、奥の台所へと続いている。家の右側には 4 つの畳の部屋があり、家族が寝泊まりした。使用人は店の上にある 2 つの小部屋に寝泊まりし、はしごで上がることができた。

建物内には薬師道具、匙や椀、薬百味ダンスなどの歴史的遺物が展示されてある。この建物は現存する町屋としては東日本最古のものとされ、重要文化財に指定されている。母屋の向かいには政治家で 26 代当主の生方誠（1894-1978）の生涯を紹介する小さな資料館がある。妻のたつゑ（1904-2000）は著名な詩人であり、その業績は沼田市中心部にある生方記念文庫で詳しく紹介されている。